PRESS RELEASE

泉屋博古館東京 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

企画展 ライトアップ木島櫻谷
― 四季連作大屏風と沁みる「生写し」

同時開催「住友財団助成による文化財修復成果―文化財よ、永遠に」」

《展覧会概要》

大正中期に大阪茶臼山に竣工した住友家本邸を飾った木島櫻谷の「四季連作屏風」を全点公開します。

木島櫻谷(1877〜1938)は明治後期から昭和前期にかけて京都画壇の俊英として活躍しました。円山四条派の写生表現を基礎に、琳派や狩野派の表現などまで研究して完成させたこの「四季連作屏風」は、櫻谷の画業の画期となるもので、制作にあたって櫻谷は、独特な色感の絵具を用い、顔料を厚く盛り上げ、筆跡を立体的に残し油彩画のような筆触にも挑戦しています。

一方、櫻谷はなにより動物画に秀でていました。描かれた動物たちはリアルなだけでなく、折節にみせる表情がどこか人間的な感情を溶かし込んだように生き生きと輝き、観る者の心に沁みます。そうした櫻谷画のリアリティーの源は、江戸時代中期(18世紀)京都で活躍した絵師・円山応挙によって編み出された「生き写し」(写生)という方法です。自然や事物を生き生きとありのままに描く写生表現は、近代にも大きな影響を与え、櫻谷もその例外ではありませんが、ここでは親和的表現に特色の動物画に焦点をあて、応挙はじめ先人画家たちによる動物表現と比較しながら櫻谷画の特質をライトアップします。

《基本情報》

展覧会名	企画展　ライトアップ木島櫻谷 ― 四季連作大屏風と沁みる「生写し」
会　　期	2024年3月16日(土)〜5月12日(日) ＊会期中展示替えなし
開館時間	11:00〜18:00　※金曜日は19:00まで開館　※入館は閉館の30分前まで
休 館 日	月曜日、4/30・5/7（火）（4/29、5/6は開館）
入 館 料	一般1,000円(800円)、高大生600円(500円)、中学生以下無料 ※20名様以上の団体は( )内の割引料金 ※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者１名まで無料
会　　場	泉屋博古館東京 〒106-0032　東京都港区六本木1-5-1 https://sen-oku.or.jp/tokyo/ TEL:050-5541-8600(ハローダイヤル)
主　　催	公益財団法人泉屋博古館、毎日新聞社

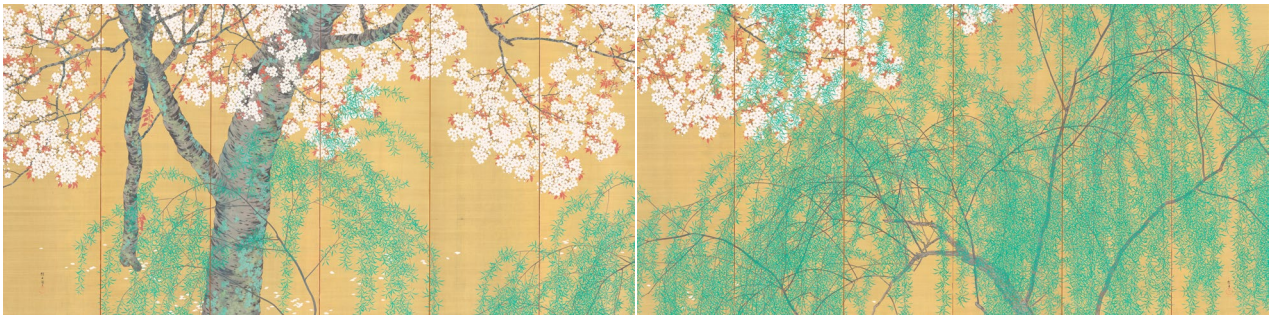
《展示構成》

§１：四季連作屏風のパノラマ空間へ、ようこそ。

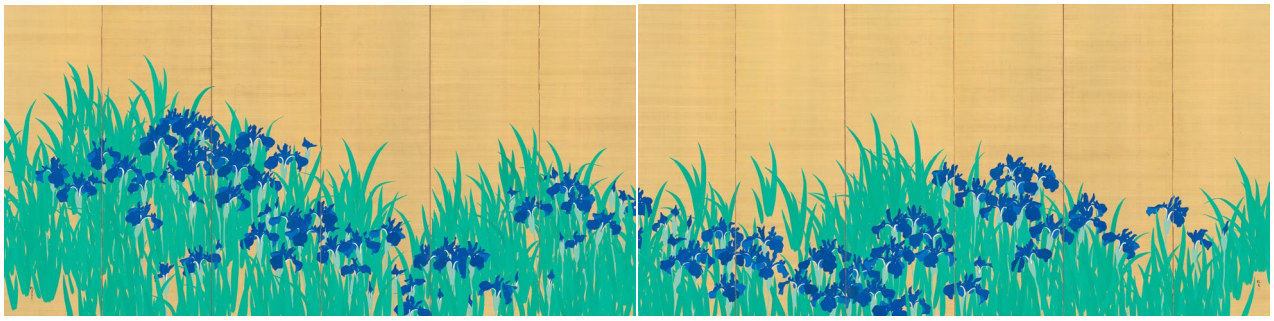
木島櫻谷が描いた四季連作の金地大屏風が全面居並ぶ空間を、まずはご用意しましたので、心ゆくまでご堪能ください。

四双の金屏風は、大正中期に大阪茶臼山に建築された住友家本邸のため、大正4年頃から2年をかけて制作されたものです。本紙だけでもすべて縦180cm・幅720cmをこえるサイズは、書院大座敷にあわせてかなり大振りです。琳派が流行した大正期、これらの屏風は制作中から「光琳風」との評判もたち、古典をこよなく愛した15代住友吉左衛門(春翠)の審美眼にかなうものでした。

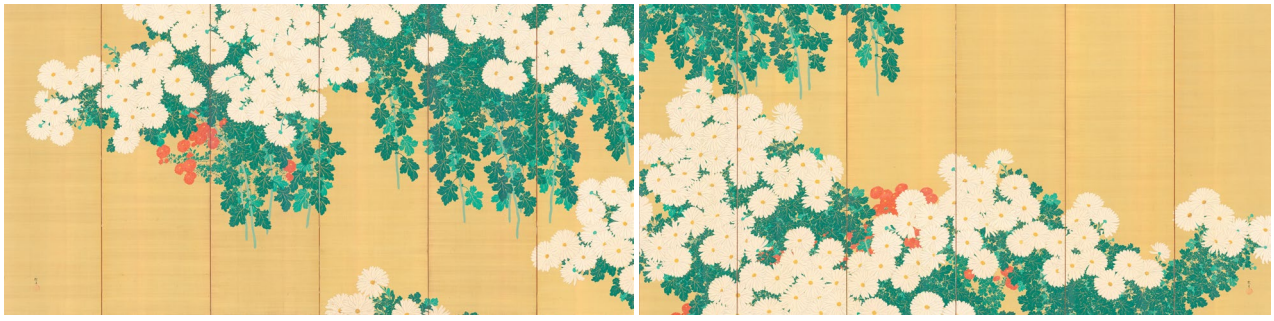
確かに、装飾性に富んだ型の反復美は琳派好みの典型を示してはいます。しかし、よく観ると油彩画も研究した絵具の扱いや、写生を生かし景物を大胆に切り取った狩野派的画面構成など、櫻谷の斬新で意欲的な取り組みが盛り込まれていることに気付きます。そして、一輪一輪描き分けられ、光を求めまた風雪にゆらぐ花々は、伸びやかでよどみない櫻谷の運筆によっていっそう輝きを増しているのです。



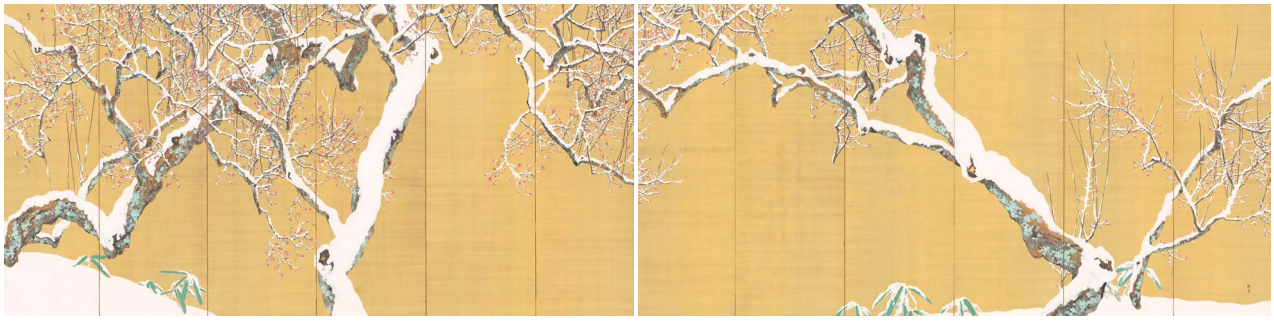
木島櫻谷《柳桜図》大正6年（1917）泉屋博古館東京



木島櫻谷《燕子花図》大正6年（1917）泉屋博古館東京



木島櫻谷《菊花図》大正6年（1917）泉屋博古館東京



木島櫻谷《雪中梅花》大正7年（1918）泉屋博古館東京

§2：「写生派」先人絵師たちと櫻谷

江戸時代中期(18世紀)、多様な画派が活動していた京都において、円山応挙（1733〜1795）は、中国画や西洋画の技法を取り入れつつ、自然や事物を生き生きとありのままに描く「生写し」(写生)という方法を編み出しました。実際に目の前の物を見ながら描くという「写生」は、当時において非常に斬新で、人々の目を奪うものでした。
その後、応挙が編み出した写生は門下の「円山派」絵師たちによって継承され、また応挙の画風に学んだ呉春を祖とする「四条派」も派生。円山四条派の写生といっても実は一様ではありません。円山派は筆数をふやすことで細密な描写をめざす「加筆派」、一方俳諧味を含んだ四条派は筆数を減らす「減筆派」の傾向があります。時代が下るとそれらが融合した作風も現れますので、一括りに円山四条派という呼び名も通りがよかったのでしょう。その円山四条派の写生画風は京阪画壇を席捲して、近代にも大きな影響を与え、明治10年生まれの櫻谷も、応挙以来の写生表現に学びながら自らの画風を確立していきました。
ここでは円山四条派の写生に基づく親和的表現に特色がある動物画に焦点をあて、先人画家たちによる動物表現と比較しながら櫻谷の動物画をライトアップします。さて、櫻谷の筆は加筆派、減筆派？

円山応挙《双鯉図》
江戸・天明2年（1782）
泉屋博古館

森一鳳《猫蝙蝠図》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館

森徹山《檀鴨・竹狸図》
江戸時代・19世紀　泉屋博古館

木島櫻谷《葡萄栗鼠》
大正時代
泉屋博古館東京

（部分）

木島櫻谷《月下遊狸》
大正時代
泉屋博古館東京

§３：櫻谷の動物たち、どこかヒューマンな。

外界の風景や事物を見たままの実感(リアリティー)と鮮やかな色彩感への欲求。これこそ、明治30年代以降の日本画に切実に求められていたものでした。櫻谷が京都画壇の中で次第に頭角をあらわすことになるのはまさにそうした時代でした。当時20歳代の櫻谷はその欲求に応えるかのように円山四条派の写生を基礎にした表現から、さらに突っ込んだ西洋画式の写実を様々に試みています。
そのために櫻谷は、「技巧派」とか、「最後の四条派」などと称されましたが、櫻谷の真骨頂は、それに収まらない斬新なものでした。古典画題に現代性を与え、時に人間的な感情をも動物たちに溶かし込んでいます。絵の中の動物たちは櫻谷の筆を通して息を吹き返し、生き生きとした豊かな表情が観る者の心に沁みます。ここでは、動物表現に託した櫻谷のヒューマニズムが生んだ作品をご紹介します。

木島櫻谷《獅子虎図屏風》
明治37年（1904）個人蔵

望月玉泉《芦雁図》
明治40年(1907)　泉屋博古館東京

木島櫻谷《秋野孤鹿》
大正7年(1918)頃
泉屋博古館東京

木島櫻谷《双鹿図》
明治30年代　個人蔵

特集展示：住友財団助成による文化財修復成果 ―文化財よ、永遠に

今に伝わる文化財は、その時代の修復や保存技術によって守られ、長い間の劣化や天災による損傷をくぐり抜けてきました。しかし脆弱な素材によって作られた文化財を、次代に継承していくことは容易ではありません。
今回の特集展示では、公益財団法人住友財団が推進してきた文化財維持・修復事業助成により甦った館蔵品2点を紹介します。住友財団は、これまで30年以上にわたり累計1,200件を超える国内外の文化財修復事業に対し助成を行ってきました。その活動の一端を、館蔵品を通じてご覧いただければ幸いです。

また伝統の技術と最新の科学によって修理された作品の展観を通じて、文化財を守り伝えることの意義、そして文化財修復のために古来培われてきた技術と最新の科学技術が融合した世界最高水準の日本の修復現場など、文化財修復の最前線を紹介します。

呉春・亀岡規禮
《松・牡丹孔雀図衝立》より
亀岡規禮《牡丹孔雀図》
江戸時代・18-19世紀
泉屋博古館

《木造毘沙門天立像》
平安時代後期・12世紀
泉屋博古館

《会期中のイベント》

＊予約制のイベントは、3月1日（金）正午よりホームページにて受付（先着順）
＊参加にはすべて観覧券が必要です　＊都合により内容を変更する場合があります

アートWithレクチャー「美術館と空気環境」4月5日（金）17時30分～18時30分
講師：山崎正彦氏（光明理化学工業株式会社）定員：50名（予約制）聴講料：500円（入館料別）

ロビーコンサート「息吹を聴く～尺八と自然描写～」4月13日（土）18時00分～19時00分
演奏：津上弘道氏（尺八演奏）定員：40名（受付終了）

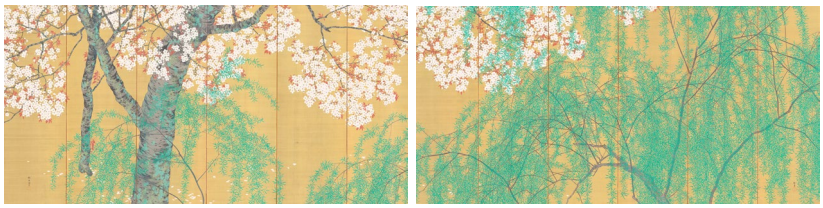
記念講演会「京都派の写生表現について―彼らは何を写そうとしているのか」
4月20日（土）14時00分～15時30分　講師：田島達也氏（京都市立芸術大学美術学部教授）
定員：50名（受付終了）

夕焼けスライドトーク　3月22日、29日、4月26日（各金）17時30分～18時30分
講師：野地耕一郎（泉屋博古館東京館長）　定員：50名（予約不要・当日11時より整理券配布）

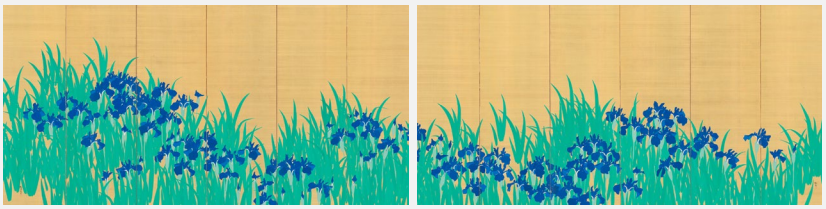
ワークショップ「絵画を支える下地建具の技術　―フォトフレームを作ろう！」
4月27日（土）14時00分～15時40分　講師：臼井浩明氏（黒田工房代表）
定員：20名（予約制）　参加費：7,000円（材料費込・入館料別）

《貸出可能画像・キャプション一覧》

※屏風片隻使用時は（右隻）（左隻）
部分図使用時は（部分）の表記をお願いします



木島櫻谷《柳桜図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京

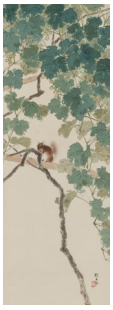


木島櫻谷《燕子花図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京

木島櫻谷
《獅子虎図屏風》
明治37年（1904）
個人蔵

円山応挙《双鯉図》
江戸・天明2年（1782）
泉屋博古館

森一鳳《猫蝙蝠図》
江戸時代・19世紀
泉屋博古館



（部分）

木島櫻谷《葡萄栗鼠》
大正時代・20世紀
泉屋博古館東京

木島櫻谷《双鹿図》
明治30年代
個人蔵

呉春・亀岡規禮
《松・牡丹孔雀図衝立》より
亀岡規禮《牡丹孔雀図》
江戸時代・18-19世紀
泉屋博古館

《木造毘沙門天立像》
平安時代後期・12世紀
泉屋博古館

プレス専用 広報用ダウンロードシステム：https://www.artpr.jp/senoku-tokyo ▼▼▼

《お問い合わせ先》

泉屋博古館東京　広報担当：橋本旦子　展覧会担当：野地耕一郎（泉屋博古館東京 館長）

TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137　E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp

泉屋博古館東京

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO